

彼は教会の家の子供に生まれた。

不妊と宣告されていた夫婦にとって、彼は『待ち望まれた子供』だったのだろう。

……目の色か、教会に出入りしていた浮浪者のものでなければ。

妻の不義を知った夫は激しい殴打の末に彼女を撲殺。血の繋がらない息子に対しても苛烈な教育と称した虐待を行う。次第に父親の被害妄想はエスカレートし、子供を攫っては息子同様に監禁し、教育と称した虐待を加え始める。

彼自身、自分と同じ境遇の子供に対して友情のようなものを感じていた。幼さゆえに、周囲の環境の異常さに気づかなかったのだ。

だからこそ、地下室で『友人』が身も蓋もなく泣き出した時には唖然とした。『おかあさん、おとうさんに会いたい』『ここから出してほしい』『かえして』と言われた時、わけもなく、嫌な予感が彼の胸をよぎった。

父親はそんな『友人』を何度も叱咤し、殴打した。

『友人』が動かなくなるまで、何度も、殴打も。

顔面が膨れ上がり、面影すら残らなくなった『友人』の死体を前に、彼は、ただただ立ち尽くし、そして——、『初めて触った』拳銃で父親を撃ち殺した。

オーヴァードとして覚醒した彼は、自身も被害者でありながら、殺された子供たちやその遺族への償いの念と誰にもぶつけようのない憎悪の念に挟まれながら今日も生きている。

普段はとにかく穏やかではわ〜っとした性格の優柔不断な男。生粋の童貞、コミュ障、争いごとやオラオラしい人々が苦手で、ずっと動物と話している。

拳銃を握ると人格が一転し、攻撃的になる。

無精髭の生えた情けない風体の青年だがよく見るとそれなりに男前。

2018.09.23 Mirage Link